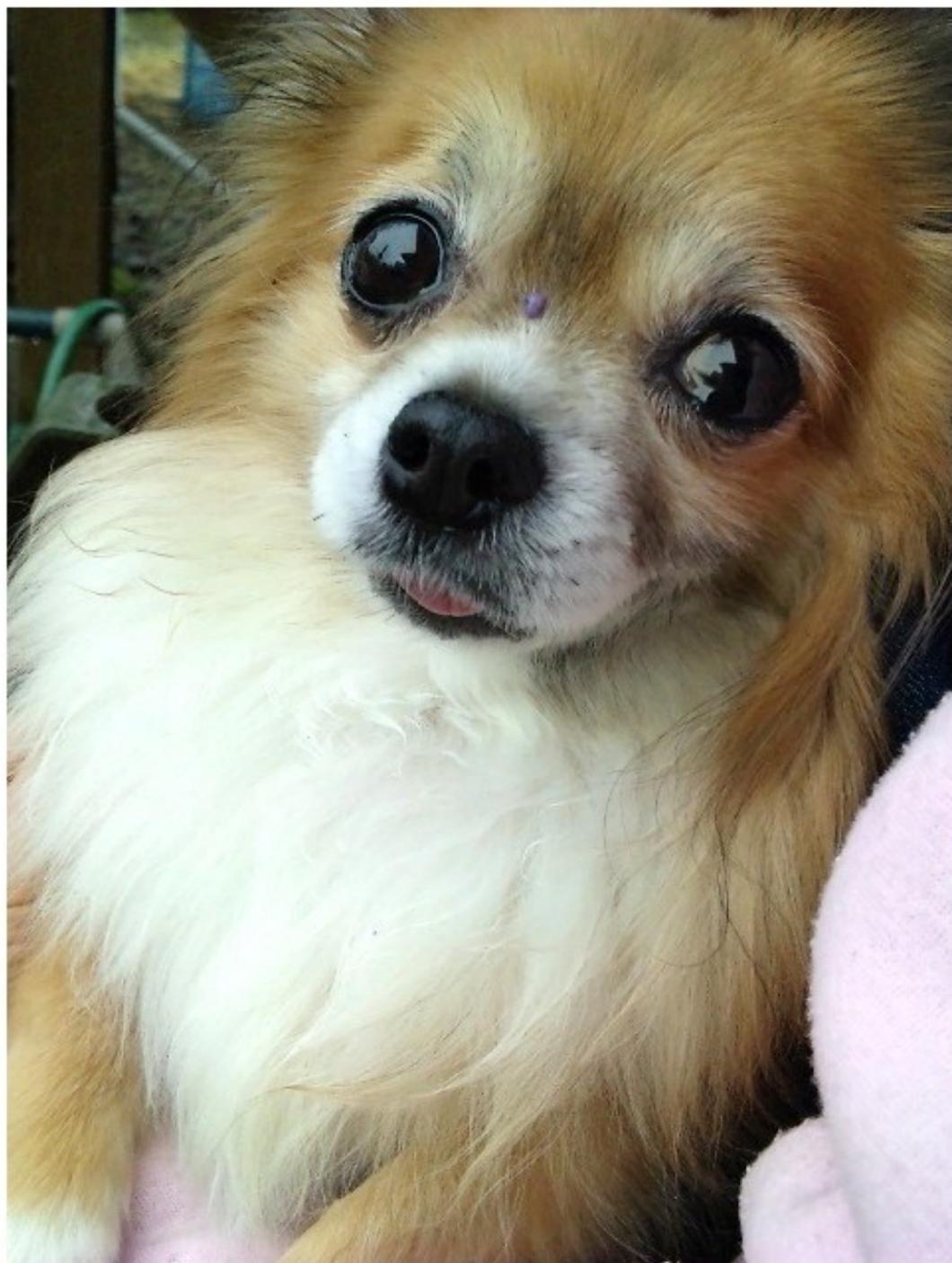


心のまま



加織



見たもの 感じたこと  
心のままに 想うままに  
好きな五行歌を詠みました

ポンちゃん  
ロングコートチワワの男の子  
埼玉県深谷市生まれ  
誕生日1999年10月30日

あなたが

---



あなたが

傍らに

いてくれるだけでいい

それだけで

生きてく活力になる



カーテン開けて

窓を開けてみる

季節の移り変わり

心地よい風が

春を運んできてくれる

## お母さん

---



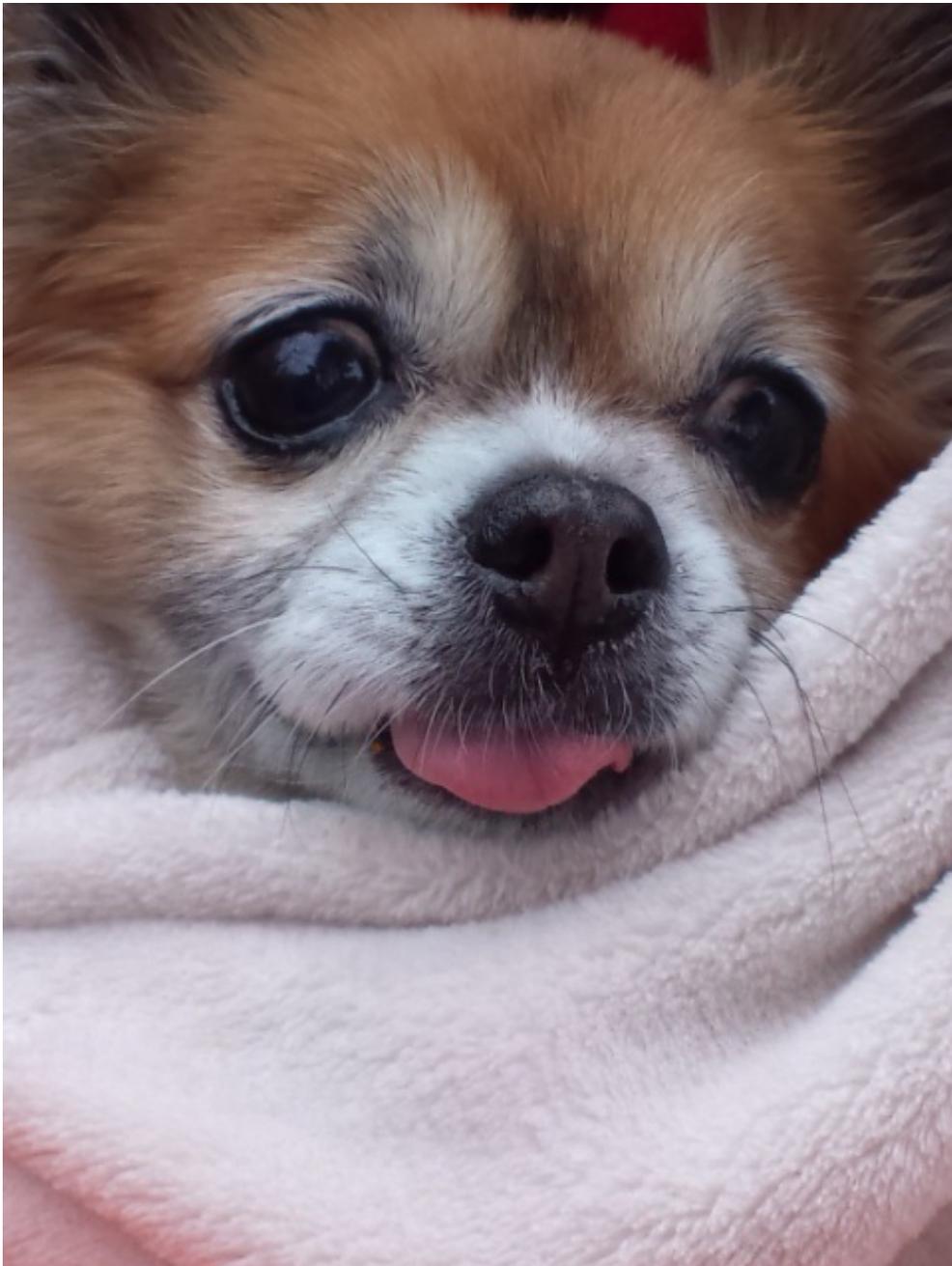
頑張り屋だったお母さん

働き者だったお母さん

今はゆっくりしてますか

わたし強く生きていくね

お母さんの娘だから



これからもずっと

見守ってくれている

そのぬくもりに

懐かしくなる

ふれてみたくなる



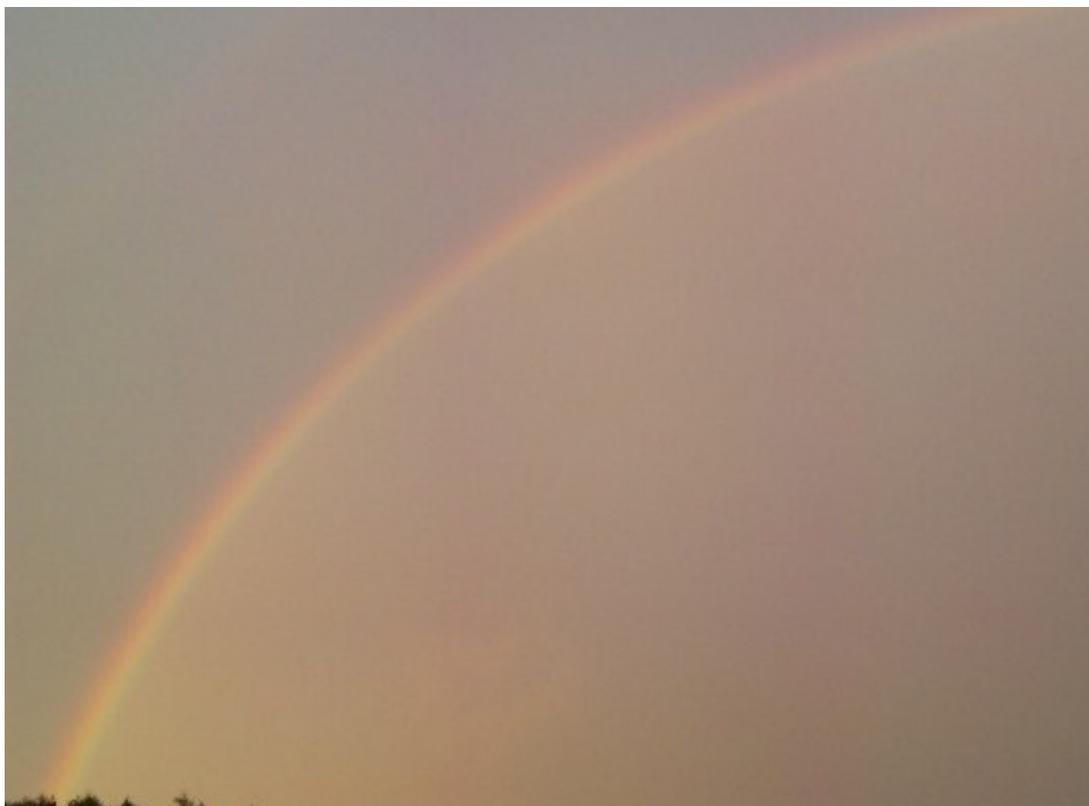
くりかえし部屋で かかっていた

ひな祭りの歌

甘酒が甘くなくて

ひなあられが甘い

幼い頃 幸せな記憶



わたしのなかの色々な悩みが

ふわふわ ふわふわと

舞って行って

いっそ泡になって その

ふわふわが消えてしまってもほしい



胸が苦しく起きてしまう夜

不安な夜があけて

朝がくるのを

小さな子供のように

ずっと待ってる わたしがいる



この哀しみ

つらい気持ちが

いつか消えてく時が くるのかな

すこしずつだけど

あの時のことが過去になってる



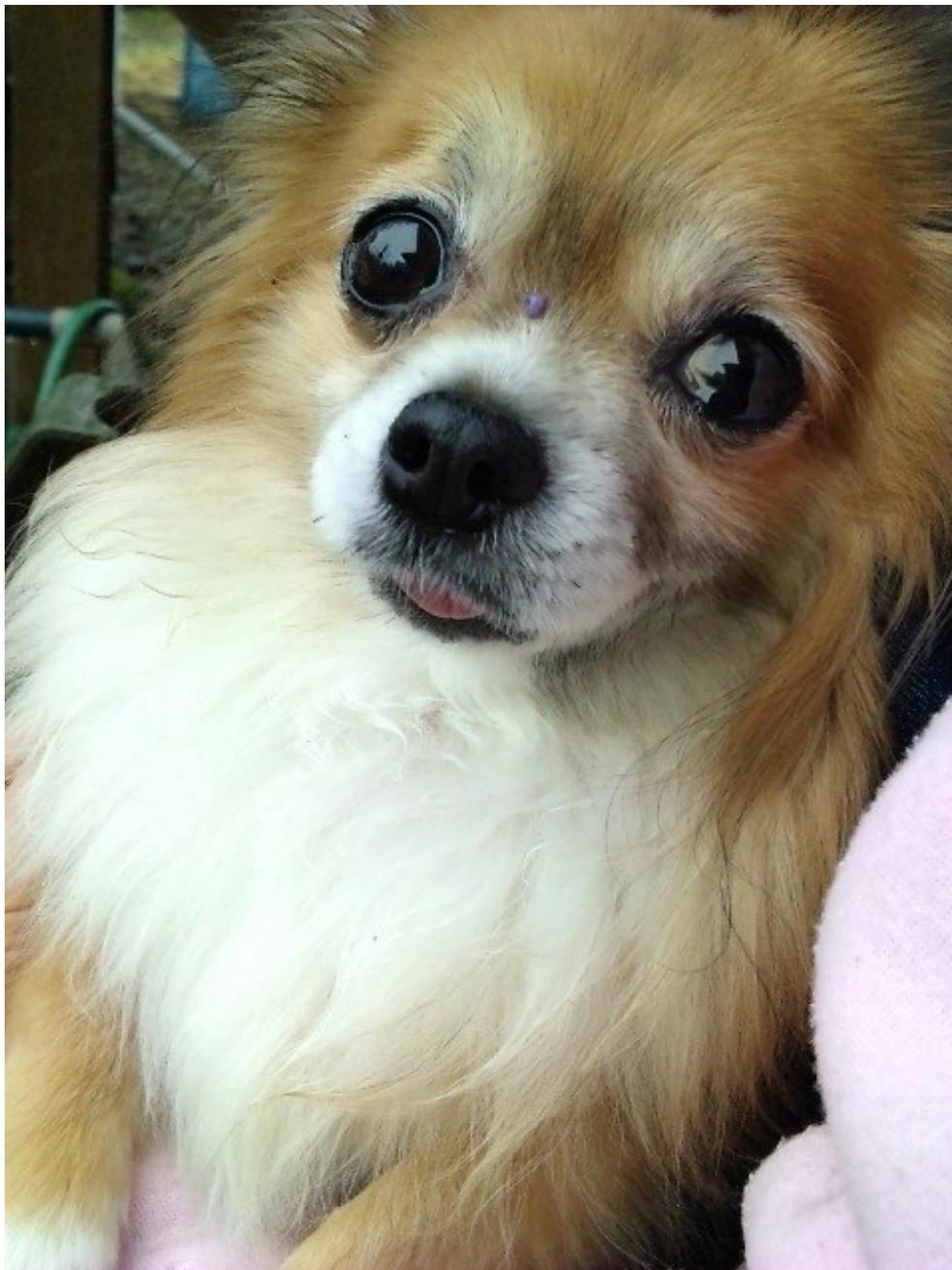
わたしは生かされている

この たった1度きりの命

大切にしたい

お母さんから

もらった命



普段のなにげない日常

こんな なにも

かわり映えのない毎日を

生きていることが

しあわせ なんだと わかった



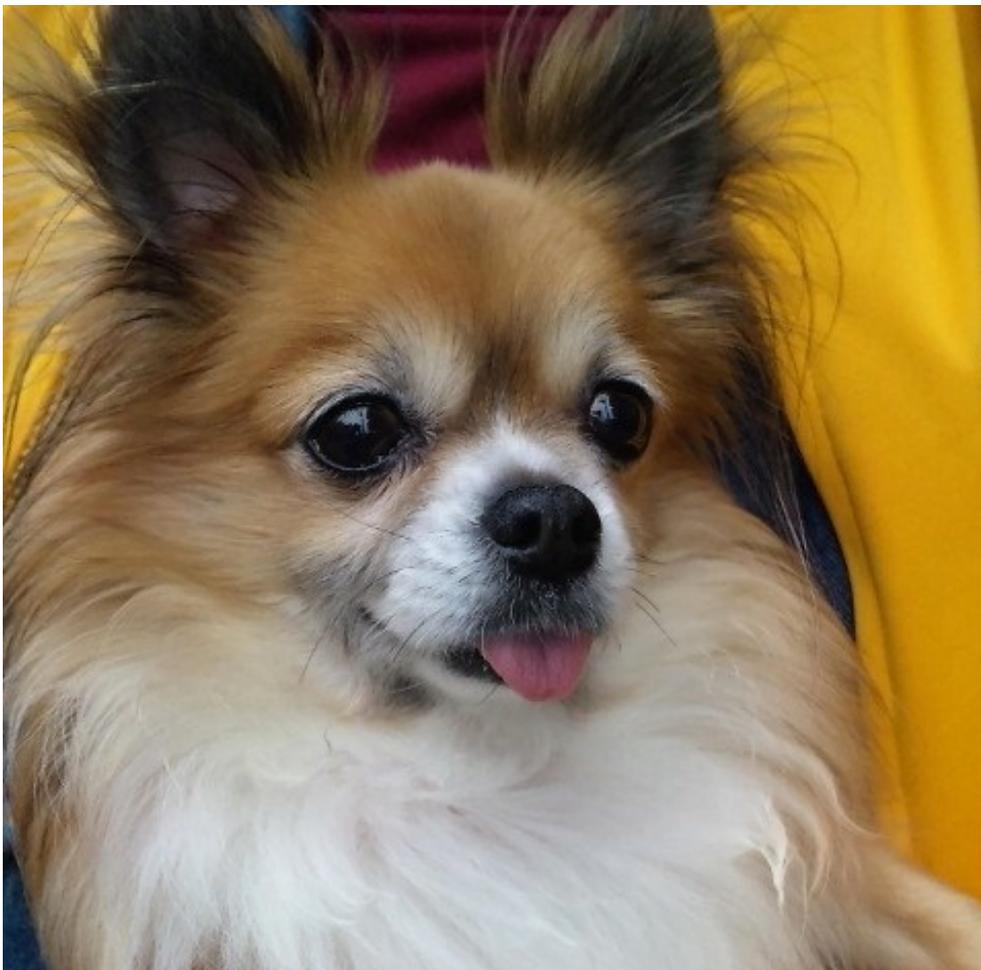
はるか彼方までつながっている

どこまで空はつながっているの

わたしのこころの不安が

この空の彼方へと

飛びたってくれたらいいのに



毎日は日常は

ゆるやかに過ぎていく

時間は ゆっくり進んでいく

時間は すこし

やさしいと感じた

現在（いま）

---



現在（いま）という

この瞬間は

現在（いま）だけ

後悔しないように

生きていこう



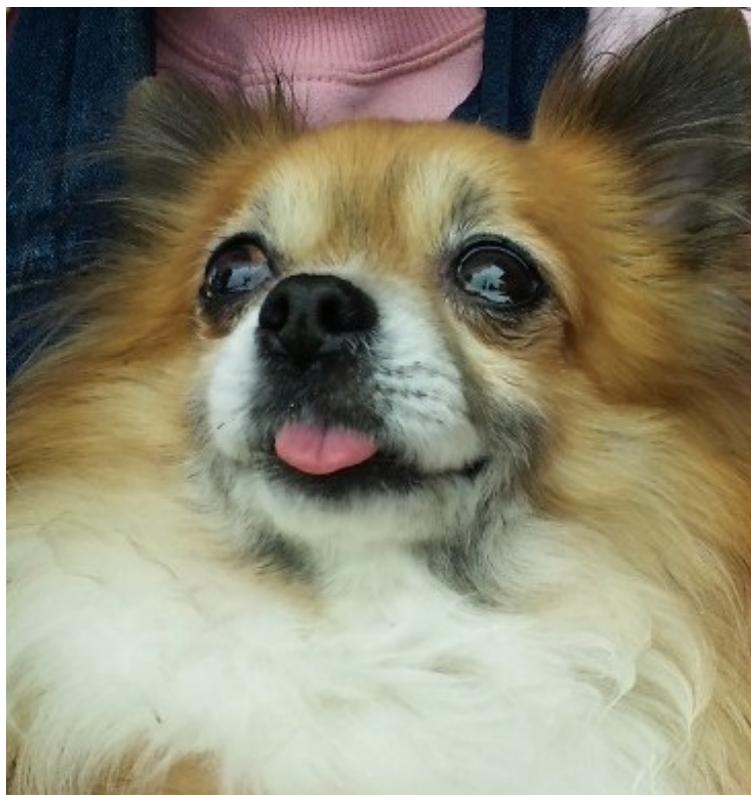
時間が過ぎて

すこしずつ

べつのかたちの

かなしみに

かわっていく



つらいことが

波のように押しよせてくると

倒れて

負けてしまいそうになる

わたしがいる



いつだったか

寒い夜

あなたと夜空を見上げて

きれいな星たちを

ずっと眺めていた



わたしがいる

部屋のなかの

あなたの香りが

消えていて

かなしかった



時間が流れて

どれほど時が過ぎ去っても

心のなかにいる

この先もずっと

永遠に



言葉は心の鏡

優しい言葉は

心を和ませる

冷たい言葉は

心を凍らせる

ありがとう

---



この世に生を受けたこと

生きているだけで

ありがたい

お母さんに伝えたい

ありがとう



光が失われたとしても

わたしがずっと

あなたの傍らにいる

だから

安心して



優しい微笑み

その 柔らかな表情に

いつも逢いたくなる

また逢えるときまで

強く生きていきたい



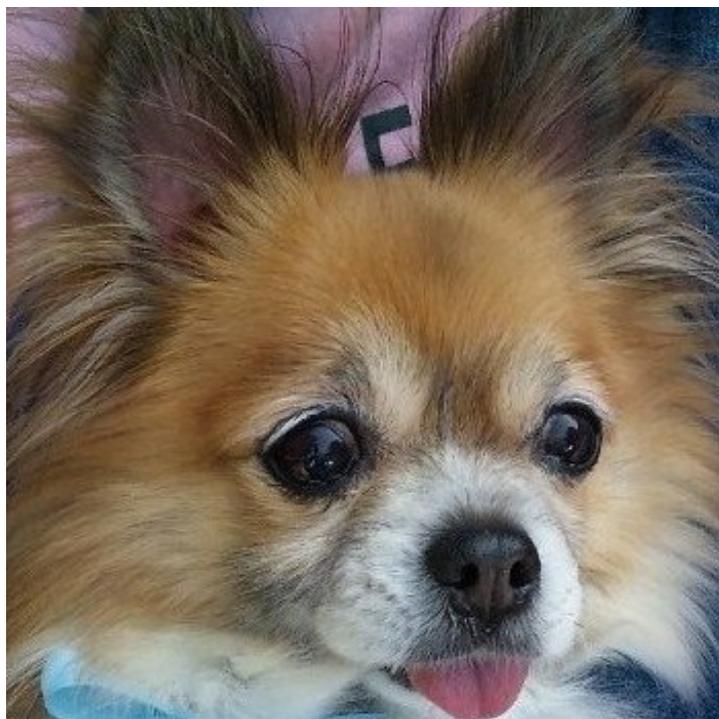
苦悩している

つかれてるとき

心に寄りそってほしい

あさ目覚めて

あなたを感じたい



心のなかに

ぽっかり空いた空虚感

大切な想いを

いつも握りしめて

また明日も生きていく



厚い雲のすき間から

あたたかい陽射しが射し込む

陽を感じまどろむ

小鳥の さえずり

みんな春を待っていた



様々な嫌悪感

伝わってくる

表情は心の鏡

人を悪く想う心

哀れ

この五行歌は私がチワワのポンちゃんと通院してた動物病院でのことを書いてみました

診察中に首を強く押さえつけられてポンちゃんはチアノーゼ起こしたり

昨日、ポンちゃんは診察台の上に落とされました

ポンちゃんは胸と顎から落下し診察台に胸と顎を強く打ち付けていました

とっても心配でしたので、すぐに別の動物病院に行き診察していただきました

獣医がそんなことして悲しいですね

こんな動物病院と気が付くのが遅すぎました

今まで変だな？と診察していて何度も疑問だったことがありました

あのとき転院していればと後悔しています

ポンちゃんが長く通院していて慣れていたので、ずっと我慢して通院していた動物病院  
でした

人や動物に対して優しくありたいですね



寄り添い

体温を感じる

あたたかい ぬくもり

ゆっくりと

心の わだかまりが溶けてる



写真た

ての中のお母さん

優しく微笑んでいる

歳をとらないお母さん

あれからみんな

歳を重ねてきた



左胸に手をあてた

力強い鼓動を感じる

これから先

力強い鼓動のように

生きていけたら



遠い昔の記憶

弟が誕生して

1ヶ月後 こどもの日

嬉しそうなお母さん

今年も柏餅ありますか



ひらひら

花びら舞う石神井川

今年も

お母さん

桜を眺めていますか



桃色 椿の花

吹き抜ける爽やかな風

あたたかい陽射し

心地よくて

やわらかな表情になる



電球に照らされた

影が揺れる

いつも見馴れている

その姿

影も愛らしい



わたしの 心のままに 想うままに詠みました



著者：加織

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/pon1030/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47470>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47470>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.